

日本とボリビアの絆 移住と国際協力から見る関係史

1899年にペルーからボリビアに転住した日本人移民93名を嚆矢として、ゴム産業で興隆したボリビア・アマゾン地域への日本人移住が20世紀初頭に始まった。北部ベニ県のリベラルタに集住した日本人は、日本人協会を立ち上げ、地元社会との共生を試みた。その後、ゴム産業の衰退とともに日本人移民は各地に拡散したが、第二次世界大戦後、サンタクルス県にサンファン移住地とオキナワ移住地が創設され、同移住地への支援からボリビアへの国際協力や日系人支援が活発になった。1980年以降は、オキナワ移住地から横浜市鶴見区などへの日系人の逆流現象も起きている。彼らは地域コミュニティを支え、多文化共生の推進役としても活躍している。本講演会では3人の講演者が、移住と国際協力から見た日本とボリビアの100年にわたる関係を解説する。

司会
講演



大島 正裕 氏（本研究所研究員）

「戦前のボリビアへの日本人移住

アマゾン地域を中心に」

講演



小原 学 氏（JICA海外移住資料館副館長）

「ボリビアへの戦後移住と国際協力」

講演



藤浪 海 氏（関東学院大学社会学部准教授）

「鶴見に集うボリビア人と多文化共生のまちづくり」

日時

2025年

7月12日（土）17:30～20:00

参加無料

場所

立教大学池袋キャンパス

14号館4階D401教室 & オンライン(Zoom)

教室参加／定員200名



Zoom参加／定員300名



申込

問合先：

立教大学ラテンアメリカ研究所事務局

東京都豊島区西池袋3-34-1

TEL: 03-3985-2578

メール: late-ken@rikkyo.ac.jp